

朝日新聞

朝日新聞東京本社

〒104-8011

東京都中央区築地5-3-2

電話 03-3545-0131 www.asahi.com

郵便認可

©朝日新聞社 2026年

2026年(令和8年)

7月14日

火曜日

校の体育館＝2011年3月21日

育すのが日世。事勢災

つ。込の偏指とかとたの災

滑って数秒 避難に数分 救助袋を体験

東京都北区の滝野川第三小で6月19日に発生した火災では、4階音楽室に避難器具の「救助袋」が設置されていたものの、使われなかった。緊急時の使い方を知るため、記者が体験した。

避難器具の製造販売を手がけるオリロー（東京都文京区）によると、救助袋には「斜降式」と「垂直式」がある。同小にあったのは滑り台のように斜めに滑り降りる斜降式だ。同社は全国の学校や事業所などに救助袋を設置していて、二つのタイプをあわせて全国シェア3割という。

3階建ての同社ビル屋上に向かった。金属製の箱に書かれた手順に従って救助袋を取り出し、投げ下ろす。地上にはあらかじめ金具が設置されており、同社員が袋の端のフックを引っかけた。ロープで救助袋全体をぴんと張ると、滑

り台のような避難経路が完成した。

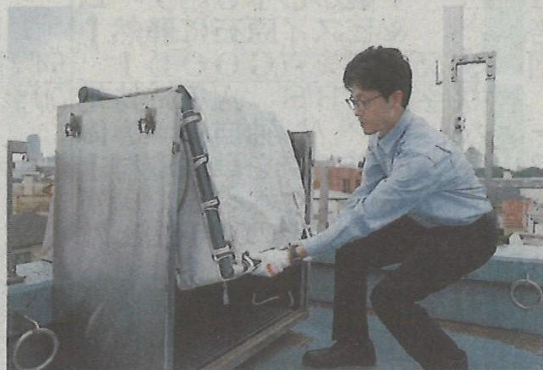
足先から袋の中に入り、握ったひもを離すと滑り出した。加速したと思ったなら、すぐに布のたわみで減速し、数秒で着地。設置から避難完了まで数分だった。

同小では火災時、音楽室に駆けつけた教諭が救助袋を使おうとしたが、黒煙が迫っていたことなどから断念。児童を窓からひさしに逃がした。救助袋を使った避難訓練は行われていなかったという。オリローの今井正幸社長は「操作自体は単純で、訓練などで経験があれば簡単に設置できる」と話している。

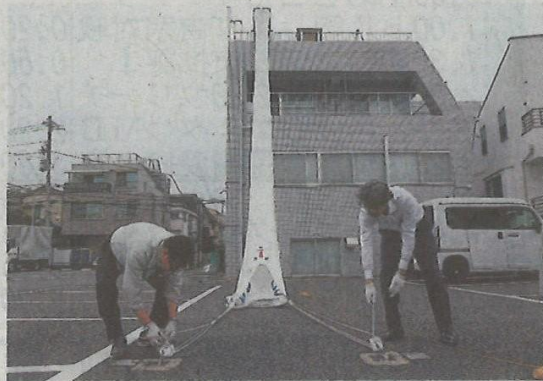
(大西朝登)



版が救助袋を体験した動画をデジタルで記者が体験した動画を紹介しています



救助袋を箱から取り出して設置する



地上に設置された金具に救助袋をセットする



いずれも1日、東京都文京区、井手さゆり撮影